

## Official trip report on ASEAN Design Selection 2017-18/Trade in Creative Industries

アセアンデザインセレクション 2017・18

### 出張報告書

国名と都市： ラオス、ビエンチャン  
出張者：貿易投資部 伊藤威子プロジェクト担当官  
リソースパーソン：株式会社プロペラデザイン 代表 手槌りが審査員  
公益財団法人日本デザイン振興会（JDP） 津村真紀子事業課長  
出張期間： 2018年1月15日 - 1月17日  
相手国機関： ラオス商工省貿易促進局 TPPD

#### ● 事業趣旨

「グッドデザイン・アセアンデザインセレクション 2017-18」は、日本アセアンセンターと日本デザイン振興会との連携によって、アセアンの零細中小企業におけるデザインスキル向上支援並びにアセアン各国の創造性豊かな企業の国際展開を支援することを目的に実施される。これまで両者は、「グッドデザイン・アセアンデザインセレクション 2003-05」「グッドデザイン・メコンセレクション 2014-15」を実施してきた。ラオスにおいては、「メコンデザインセレクション 2014 - 15」事業で優秀企業を輩出してきた経緯がある。今回もデザインスキル向上並びに新しい価値の創作支援を行う。

#### ● 訪問内容

グッドデザイン・アセアンセレクション 2017-18」の「推薦候補の選択」にあたっては、これまでの事業経験を生かし、(1) デザインの考え方を理解し共有する「デザインセミナー」、(2) 日本のデザイナーとの対話する「ワンポイントアドバイス」、さらには、(3) グッドデザイン賞受賞に向けての論点を共有する「企業訪問」で統一さ、次の内容で実施された。

- ・ 1日目：デザインセミナーとワンポイントアドバイス
- ・ 2日目：企業訪問と推薦候補選び
- ・ 3日目：現地主催者への報告と意見交換

#### ● ラオス

場所：クラウンプラザホテル、ビエンチャン

参加人数：59名

候補企業数：10企業

訪問企業数：7企業

#### ● 第一審査結果:

合格： 3企業



### シーホーム・メーソック・ジュエリ Seahom Meesook Jewelry (SMJ)

評価ポイント：ビジネスモデル、プロダクト

ラオス人デザイナーが立ち上げた AIDA Lao Jewelry というブランド。ラオスの伝統デザインとモダンの融合をコンセプトに、イエロー、ホワイト、ピンクゴールド並びにジルコニアで構成するジュエリー。顧客が使用したジュエリーに対してサイドデザイン変更の加工に応じ、買い取りにも対応するというシステムがユーザーフレンドリーとして評価対象となった。R&D 部門をもち消費者のニーズを調査している点も、今後のビジネス展開に期待を持てる。



### カイシーハンディクラフト Khaisy Handicraft

評価ポイント：プロダクト

ラオスで古くから伝わるシルク織物工房。ナチュラルダイ、ハンドメイドを保全し、「シン」(ラオス伝統衣装の巻スカート)に用いられている古来のモチーフを転用した和装帯を3ヶ月以上かけて仕上げ、日本市場に参入した経験を有する。地域により多種多様のモチーフが現存するが、同社は、ラオス北部にある Xam Nua 地方のモチーフを大事にしており、母から娘へとラオスの地場産業を守り文化継承することでラオスの伝統を守る取組みを高く評価。



### ハーワークス Her Works

評価ポイント：ビジネスモデル、プロダクト  
少数民族の自立支援を目的として、ラオス女性起業家 Ms. Douangmanh HAUANGKHAMSENE によって起業された会社。少数民族が織り成すアイテムひとつひとつにストーリーと伝統があるが、その作り手の魂と価値を海外にも拡散させようという取組みを評価した。今回対象となっているのはタイル族のくつ、ガドウ族のポーチ、ヤオ族のセカンドバッグ。



- 手縫りか審査員からの評価：

ラオスでは伝統的な織物と金を主軸とするジュエリーや地域物産やバック、ドキュメントマネージシステムと多様な応募があった。大半の応募者は、販売する店舗を持ち、生産者自らが販売するスタイルをとっている背景から、海外での販売流通に関してはまだ距離があるように感じられた。その中ではハイシーハンディクラフトの作る織物のクオリティーはすばらしく、親子で織物の技術を引き継ぎ、現代の生活様式にあわせたバックや小物などのアイテム作製にチャレンジし、伝統を守りつつ積極的な商品作りの姿勢が評価された。2つ目のハーワークスは多民族国家が持つ民族それぞれの伝統的織物とその手法や装飾を用いて現代風にアレンジし、商品を作り販売している。コンスタントなオーダーをキープし、それらを作る少数民族の女性を支援することを目的としていることが評価のポイントとなった。最後にシーホーム・メーソック・ジュエリーは、今も金銭として売買が盛んに行われている金のジュエリーマーケットを買取りの対象ではないイエロー・ピンク・ホワイトゴールド、ジルコニアまでに広げ、更にシンプルなデザインのシリーズを投入することで、シーズンに合わせた新たな買い換え需要を生み出す販売スタイルをつくり、またその回収された商品は再度材料として溶かされ新しいデザインに生まれ変わるというそのビジネスモデルが評価された。今回の選定を通してラオスの強みである手仕事はまだしっかりと残っていることが確認できたが、今後はその現存するすばらしい伝統的な技術を守りつつ、時代のニーズに合わせてビジネスになりうる進化を加えていくことが重要であると感じた。

- 津村真紀子氏からの総評：

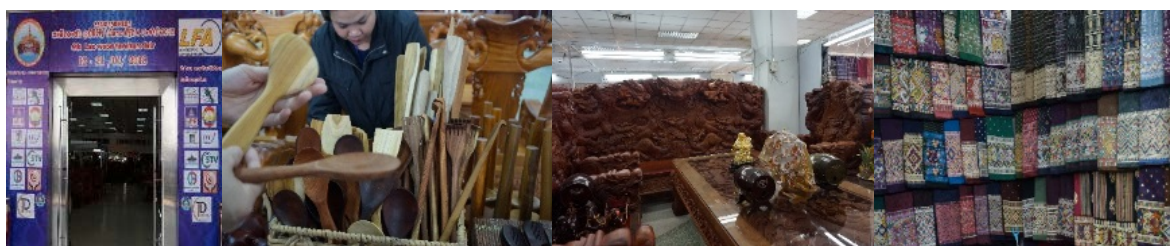
今回視察した企業の中には、日本の販路をすでに獲得している「大手」もあったが、全体的には零細中小企業が伝統的な手仕事を継続している、貴重な国であると感じた。他方、多くの企業が ASEAN 諸国と足並みをそろえようと経済成長をめざし、大きな変貌を遂げようとしている。その多様性の中で、国を象徴するアイデンティティである伝統産業や技術を引き継いだ若い世代が、伝統を尊重しながら新しい付加価値観 ( Value Added ) を取り入れ、次につなげようとしていく姿勢がみられた。今回第一次を通過した3社、シーホーム・メーソックジュエリー、カイシ・ハンディクラフト、ハーワークスもそれが特に顕著であった。

- 全体の総論：

2014 年間実施したメコンデザインセレクションにおいては、ラオスの老舗織物企業のほか、紙布（しふ）を扱った企業並びに中央アジアの絨毯の技術を取り入れた企業が受賞した。今回は、20 年以上の実績を持つ企業に加え新規参入した企業も多数あり、第一次選考を通過した 3 社のうち 2 社は、過去 2 年間に起業した会社である。ラオスではセミナー、ワークショップ参加者が 59 名とアセアン 10 カ国の中では最も多く、アンケート調査に回答があった中からは、86%が自分のニーズにあった成果を持ち帰ることができたという結果となった。また、手槌審査員、津村 JDP 職員のプレゼンテーションについては、全員が大変満足したという回答を得た。参加者は、手工芸従事者、デザイナー、卸売業、輸出業の順に多くラオス人の、デザインイノベーションに対する関心の高さが伺えた。今回の訪問でラオス産業が持っている課題、すなわち伝統とモダンデザインの融合をどうするか、手仕事を守るべきか、価格を抑えるための効率優先かという次の段階をどう乗り越えるべきか、と試行錯誤しているということがみえたように思う。日本がかつて通ってきた道とも通ずるこの課題に適切な助言をしていけるよう、今後の JDP との連携が期待される。



- その他：国際展示場（International Trade Exhibition and Convention Centre・ITECC）訪問  
 ビエンチャン、国際展示場（International Trade Exhibition and Convention Centre・ITECC）において開催された第 4 階木工家具フェアを視察する機会を得た。展示品の多くは中国輸出向けまたは国内市場用のものだった。日本市場に参入する為には、デザインのイノベーションが必須である。



了